

ムーンショット型研究開発制度5年目評価について(案)
(目標4)

令和6年6月3日
総合科学技術・イノベーション会議

ムーンショット(以下「MS」という)型研究開発制度は、我が国発の破壊的イノベーションの創出を目指し、従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発を推進する最大10年間にわたる国の大型研究プログラムである。

ムーンショット型研究開発制度の運用・評価指針においてCSTIが行うこととされている5年目の評価について、以下の通りとする。本目標については、

継続 ~~終了~~

とする。

(評価)

○MS目標に対する進捗状況

ラボからベンチプラントへ順調にフェーズアップし、実証試験を実施する予定となっていることを確認した。また、DAC(※1)技術について、スタートアップの設立やCCU(※2)成果をスピンアウトするなど、一部研究成果の社会実装に向けた取組が先行して行われていることも確認した。

※1 DAC: Direct Air Capture、 ※2 CCU: Carbon dioxide Capture and Utilization

○今後のMS目標の達成の見通し

国際状況の整理に基づく課題抽出がなされ、国際連携の加速と目標内のプロジェクト間の有機的な連携の促進、社会実装に向けて必要となる企業の追加などの取組が実施されていることを確認した。また、ステージゲートでの絞り込みと企業主体の体制への移行など、社会実装に向けた取組方針を確認した。

(付帯事項)

継続にあたり、以下の事項について、関係府省、研究推進法人一体となって、引き続き取り組むこと。また、今年度内にムーンショット型研究開発制度に係る戦略推進会議に付帯事項に係る進捗を報告すること。

- 国際情勢や技術動向を整理し、挑戦的な研究開発を含め、機動的なポートフォリオの見直し
- 若手研究者がプロジェクトに積極的に参画できる環境の構築および人材育成の推進
- 他制度や各戦略との連携や役割の明確化
- 国際的な標準化や規制について、日本の立ち位置の明確化と米国、欧州などとの連携
- 企業の関与を高めるに当たって、企業参加の割合増に向けた取組を促進

以上